

症例 9

前歯反対咬合(受け口)を歯周外科処置と歯牙移植、補綴矯正を行って
正常咬合に治した症例

30才男性 残存歯 $\begin{array}{c} 8 \\ \text{---} \\ 7 \end{array} \begin{array}{c} 8 \\ \text{---} \\ 7 \end{array}$

初診時、カウンセリングを行うと前歯の反対咬合(受け口)を治したいとのことでした。(オーバーバイト2.5mm
オーバージェット-5mm)。

正常咬合にする治療方法として、

- ① 外科的に左右下顎骨を切断して短くし下顎ごと内側に入れる方法。
- ② 矯正治療
- ③ 補綴物(かぶせ物)で治す方法

と3通りの方法があります。

①はかなりの手術になり、その後歯列矯正の必要もあるので中止。

②では、上下顎の位置が異なるため(上顎が内側に入りこみ、下顎が外側に出ている)、①の下顎骨切断手術を行わないで矯正治療を行うと、上の前歯の唇側傾斜(出っ歯)が強くなりすぎてしまうこと、矯正装置が長時間見えること、治療期間が長すぎることで、さらに治療費の問題などで中止。

③の方法を選択しました。

前歯治療を行うには顎関節症状の確認が不可欠です。

この症例では、正中(上顎と下顎の中心)は左に3mmずれていますが、顎関節症状はないので臼歯(奥歯)はこのままの咬み合わせでいくことにしました。

上の前歯3本 $\begin{array}{c} 1 \\ | \\ \text{---} \\ 2 \end{array}$ が無髄(歯の中の神経がない)で黒く変色しているので、まず根管を清掃、漂白し、

再根管処置を行います。右上犬歯 $\begin{array}{c} 3 \\ | \\ \text{---} \end{array}$ の萌出するスペースがないため5mm以上外側(唇側)に

とび出しています。 $\begin{array}{c} 4 \\ | \\ \text{---} \\ 1 \end{array}$ の間のスペースが、ほぼ $\begin{array}{c} 3 \\ | \\ \text{---} \end{array}$ 1歯分の歯冠幅であるので、 $\begin{array}{c} 3 \\ | \\ \text{---} \\ 2 \end{array}$ を抜歯し

$\begin{array}{c} 3 \\ | \\ \text{---} \end{array}$ が $\begin{array}{c} 4 \\ | \\ \text{---} \\ 1 \end{array}$ と同じラインに並ぶようにソケット形成を行って $\begin{array}{c} 3 \\ | \\ \text{---} \end{array}$ の歯牙移植を行います。

次に外側(唇側)に出ている下の前歯7本 $\begin{array}{c} 3 \\ \text{---} \\ 4 \end{array}$ を内側(舌側)方向に向けて冠(かぶせ物)をかぶせる

治療に入ります。



この際 ・ $\begin{array}{c} 3 \\ \text{---} \\ 3 \end{array}$ 歯頸部の歯肉ラインがそろってない点、・今の歯頸部の位置から内側に向けてかぶせると舌側傾斜(内側方向の角度)がきつくなってしまふ点、この2点を解決しなければなりません。


そのためまず下の前歯4本 $\begin{array}{c} 2 \\ \text{---} \\ 1 \end{array} \begin{array}{c} 1 \\ \text{---} \\ 2 \end{array}$ の歯肉切除、歯肉整形を行い、下の前歯6本 $\begin{array}{c} 3 \\ \text{---} \\ 3 \end{array}$ の歯頸部歯肉ラインをそろえました。

$\begin{array}{c} 2 \\ \text{---} \\ 2 \end{array}$ 歯頸部歯肉の位置が下がったので冠(かぶせ物)を入れても舌側傾斜の程度を最小限に抑えることができるようになりました。直ちに、下の前歯7本 $\begin{array}{c} 3 \\ \text{---} \\ 4 \end{array}$ を一回り削り内側(舌側)方向に向けて作った

仮歯を入れます。

最後に上の前歯を外側(唇側)に出す治療に着手します。

既に  を内側に歯牙移植しているので、上の前歯5本  の歯頸部歯肉ラインは概ね合っていますが、より正確に合わせるための歯肉整形を先に行います。

次に上の前歯6本  を一回り削り外側(唇側)方向に向けて作った仮歯を入れます。患者様にも鏡を見て戴きながら上下仮歯のバランスを修正していきます。

御満足されたところで、その仮歯と全く同じ傾斜、歯冠長の最終補綴物を装着して治療を終了します。

仮歯(またはプロビジョナル)とほとんど同じ形の最終補綴物を作製するために、症例1・5で記載しているようなワックス試適を行います。

なお治療開始から終了までの間、常に仮歯が入っているので、歯のない期間は1日もありません。

前歯はその人の第一印象が決まってしまう程重要な部分です。歯並びが悪いために多くの方がコンプレックスをお持ちになっておられますが、最新技術を駆使しますと、今まであきらめていた方もこのように次々と治っておられます。

その患者様に最も適した治療法を説明させていただきますのでご相談ください。